

【 目 次 】

1	はじめに	1
2	全国の中心市街地は今、	1
3	熊谷市の中心市街地は今、	2
3・1	熊谷市の概況と郷土の雄	2
3・1・1	熊谷市の概況	2
3・1・2	中心市街地の概要	2
3・1・3	熊谷次郎直実の紹介	3
3・2	中心市街地の現状	3
3・2・1	人口の推移	3
3・2・2	高齢化の状況	4
3・2・3	空き店舗、空き地の状況	5
	(1) 中心市街地の空き店舗の状況	
	(2) 空き地等の状況	
3・2・4	星川地域の状況	5
3・2・5	市民アンケートから見る中心市街地	6
4	政策提言	7
4・1	お年寄りの活躍で街おこし～平成直実隊結成～	7
4・1・1	“親衛部隊”で街なか見守り隊	7
4・1・2	“教授部隊”は街なかの先生	8
	(1) マイスター先生のおもしろ教室	
	(2) お年寄り寺子屋	
	(3) 「おばあちゃんの知恵袋」何でも相談所	
	(4) ニャオざね隊の結成	
4・1・3	“板前部隊”でおいしさ探求	8
	(1) チャレンジ屋台	
	(2) B級グルメの発信	
4・2	街なか居住への誘導	9
4・2・1	星川茶屋	9
4・2・2	医療モールで交流	9
4・2・3	産直で地域の食材をゲット	9
4・2・4	街なかファームで楽々農業体験と安全・安心な生活空間	10
4・2・5	高齢者住宅（長屋住宅）への改築	10
4・3	これからの中心市街地	11
5	政策提言への課題	12
5・1	課題の抽出・解決策	12
5・1・1	平成直実隊の結成と組織運営	12
5・1・2	空き家・空き店舗の安全性の確保	12
5・1・3	公共施設としての用地取得	13
6	おわりに	13

提 言 要 旨

「まちの顔」とも言うべき“中心市街地”の衰退のその後を再検証し、「賑わいのある魅力的なまち」とするためにはどのようにすればよいのかを、“お年寄りの活用”“空き地等のマイナス要素を逆手に取る”という新たなまちづくりの手法を用い、その政策について提言する。

現 状

郊外の大型SCに顧客を奪われたことなどで、衰退した中心市街地は“人”と“街”の高齢化が進んでいる。

- ・ 空き家、空き店舗が取り壊されて、空き地が増加している。
- ・ 全国的な傾向として、人口が減少するとともに、高齢化率が上昇している。

①来街者の減少に伴い、お年寄りの働きの場・活躍の場が失われている。また、商店街店主の高齢化も進み、後継者育成が急務になっている。

課 題

②空き家・空き店舗がいつの間にか空き地や駐車場となり、賑わいが薄れた中心市街地となっている。

提 言

お年寄りの活躍で街おこし

団塊の世代もリタイアし、元気なお年寄りがますます増えている。空き家・空き店舗・空き地を活躍の場として活用し、各分野で培った豊富な知識・経験を次世代へ伝承する先生役（マイスター先生のおもしろ教室、「おばあちゃんの知恵袋」何でも相談所 etc）を担ってもらおう。

街なか見守り隊を結成し、定期的に街なかを巡回してもらい、街なかの防犯、朝夕の子ども達の安全・安心を担ってもらおう。

街なか居住への誘導

人口減少時代に高値安定の高齢化率、動き回らなくても身近に公共施設や商業施設等が整っている街なかに、再び居住者を増やす。ターゲットは交通弱者であるお年寄り。利用可能な空き家を再利用したり、空き地を活用して、お年寄り向け長屋住宅の建築、老朽化した市営住宅を街なかに移転する。

空き地を活用して「芝生公園」「ファーム」を整備し、憩いの空間とする。

効 果

教室等の開催や芝生公園・ファーム等を整備することにより、お年寄り同士の交流のほか、お年寄り子どもなど世代間交流ができ、街に活気が生まれる。

お年寄りが常に街なかを歩くことにより、防犯対策になるとともに、街に賑わいが生まれ、街が明るくなる。

お年寄りの活躍の場が増えることにより、お年寄りが生きがいを感じ、ますます元気になる。元気で健康なお年寄りが増えることで、医療費の抑制につながる。

「芝生公園」「ファーム」は、ヒートアイランド対策、雨水流出抑制対策など、多目的空間としての利用が見込める。